

氏名	中西京子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第94号
学位授与年月日	平成19年9月5日
学位論文題目	滋賀県下新人看護職者における職業性ストレス・抑うつに関連する要因の検討

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	96	(ふりがな) 氏 名	なかにし きょうこ 中西 京子
修士論文題目	滋賀県下新人看護職者における職業性ストレス・抑うつに関連する要因の検討		
<p>【背景および目的】新人看護職者を取り巻く医療の現状は非常に厳しい状況にあり、新人看護職者の入職後早期離職を防止することは看護マンパワーの確保という観点からきわめて重要な課題である。一方、新人看護職者においては、看護技術修得が、職業上のストレスや職場定着に大きく関与していると言われている。入職後からの6か月間は職場環境に慣れ、技術を修得していく上において非常に重要な時期であると同時に、重圧がかかっている時期といえる。その為、この時期における新人看護職者の職場適応の程度と看護技術修得過程の程度との関連を見出すことは重要であると考えられる。滋賀県下の新人看護職者において、4月就職時から6か月後までの看護技術修得が職業性ストレス・抑うつに及ぼす影響について看護基礎教育背景・病院の規模・夜勤の有無等を考慮して検討することを目的とする。</p> <p>【方法】滋賀県下61病院のうち平成18年度に新人看護職者が就職した44病院470名を対象とし、ベースライン調査への応諾が得られた297名を追跡調査対象とした。対象者への調査は郵送による自記式アンケート調査とし、3か月後、6か月後に個別に郵送法にておこなった。評価の指標には、看護技術修得の自己評価、JCQ日本語版、SDS自己評価式抑うつ性尺度を用いた。分析は、看護技術の自己評価得点を経過別に記述し、職業性ストレス・抑うつへの影響については、職業性ストレス・抑うつを従属変数とし、看護技術修得を独立変数、年齢・ベースライン調査の自己評価得点・看護基礎教育背景・病院の規模・夜勤の有無で調整した多重ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比および95%信頼区間を算出した。なお、看護技術修得は、6か月調査からベースライン調査時の差を用いた。</p> <p>【結果】応諾が得られた297名を対象とし追跡調査を行った。就職3か月調査は205名、就職6か月調査は166名から回答が得られた。このうち、ベースライン調査および就職6か月調査において看護実践能力達成項目に完答した者151名を本研究の分析対象とした。結果は、ベースライン調査から就職6か月調査時の看護技術修得は、仕事ストレスに影響していなかった。しかし下位尺度である仕事の要求度は高く（総得点；オッズ比：2.03、95%信頼区間：0.89-4.67、看護ケア基盤形成；オッズ比：1.69、95%信頼区間：0.73-3.98、看護基本技術；オッズ比：1.85、95%信頼区間：0.83-4.10、看護専門職としての態度形成；2.09、95%信頼区間：0.86-5.08）、仕事のコントロールも高いという状態であった（総得点；オッズ比：0.23、95%信頼区間：0.09-0.57、看護基本技術；オッズ比：0.32、95%信頼区間：0.14-0.74）。また、就職6か月調査時において約6割に軽度および中等度の抑うつ傾向が見られた。そして、ベースライン調査の看護技術が低いと自己評価しているものは、6か月後の抑うつの頻度に影響を及ぼしていた（オッズ比：2.26、95%信頼区間：1.38-4.72）。</p> <p>【考察】ベースライン調査の看護技術は、職業性ストレスおよび抑うつに影響を及ぼしていた。また、6か月間の看護技術修得は、職業性ストレスに影響を及ぼしていた。看護技術修得不良群は、仕事の要求度が高く仕事のコントロールも高い状態であった。これは、仕事の活動性と呼ばれ、新しい行動様式を開発するための学習意欲を生みだして成長と発展を促すといわれている。看護技術修得ができていないと自己評価している新人看護職者は、技術修得に向けて前向きに努力している集団群ではないかと考える。</p> <p>【結論】新人看護職者において、4月就職の時点で、看護技術ができないと自己評価している者は、6か月後の抑うつへ影響を及ぼしていた。また、看護技術修得ができていないと自己評価している者は、職業性ストレスに何らかの影響を及ぼしているのではないかと考えられた。新人看護職者の技術修得に対する支援はもちろんであるが、精神的支援も重要である。</p>			